

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4190100018
法人名	有限会社 釘本
事業所名	グループホーム 青空
所在地	佐賀市神野西4丁目12番12号 (電話) 0952-31-9208

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 7人,	非常勤 6人, 常勤換算 3.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 2階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	4 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つついクリニック(内科)・ふちがみ歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には、商店や民家が立ち並び、地域とともに暮らすホームとしての環境がある。また向かいの公園は日常の散歩コースとなっている。管理者の自宅を建て増して開設したことで、近隣との付き合いが継続して自然に行われていることも特徴である。管理者や職員はホームヘルパーとして培った経験を活かし、入居者や家族のそれぞれの希望や思いに寄り添うケアを実践し、信頼関係の構築を目指したホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では市町村との連携が課題としてあげられた。その為、問題点や課題など市へ相談、助言をうける機会を設け、ホームを理解していただくように努めている。又ヘルパー養成の実習や学生の職場体験などへホームを提供し、ホームの開放を目指している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員がそれぞれに取り組み、その上で全体の自己評価が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、市の地域包括支援センター、民生委員、自治会長、入居者や家族が参加し2ヶ月に一度行われている。自己評価や外部評価の内容を検討したり、それぞれの立場で意見の交換ができる機会となっている。毎回全家族に出欠をとり、欠席の場合は議事録を送付している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議では、家族の心情を話していただくこともあり、職員はサービスの質を向上させるチャンスととらえて、入居者や家族の気持ちに添った関わりをするよう努めている。また、家族会を開催し、意見を言ってもらえるように声掛けにも努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣のスーパーへ毎日買い物に行き、入居者と店員さんが顔なじみとなったり、夜間の避難訓練は地域の人の協力を得て行っている。又ゴミ当番や川掃除にも出るなど地域住民としての勤めを果たし、地区の敬老会へも出席するなど、地域で暮らすという考えが職員に浸透している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム名「あおぞら」を頭文字として、家庭的な環境でその人らしさを大切にした理念がつくりあげられている。	○	これまでの理念に加えて地域密着型サービス事業所としての地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を踏まえた理念作りを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で、コミュニケーションのありようを指導したり、介護計画の作成時や、月1回の職員会議の時に理念を振り返り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者の自宅を増築し運営していることもあり、地域との交流は開設前と変わらず日常的に自然にできている。川掃除やゴミの当番、またグランドゴルフに誘われたり、行事にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが、自己評価に取り組み、全員の意見を反映し、まとめている。昨年の改善項目には、「市町村との連携について」が上がり、その後はホームの課題について市へ相談し、助言を受けるなど、連携に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市の地域包括支援センター、民生委員、自治会、家族、入居者などの出席で2ヶ月に一度実施している。自己評価や外部評価の報告を行い、出席者からの意見も出て、職員はサービス向上の機会と捉えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの課題や問題点など市へ相談する機会を作り、理解を得るよう努めている。また、ホームヘルパー養成の実習や学生の職場体験の受入れなど、場所の提供をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを作成し送付する折に、個人別に近況報告も記入し、日ごろの入居者の暮らしぶりを家族に伝えている。面会時には、介護計画についての希望を聞いたり、内容を見直すなど意見を聞く機会と捉えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に個別に意見を聞いたり、家族会を開催し、希望など言ってもらえるように努めている。ケアの内容に関しては、家族等からの希望を反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の都合で異動することは無く、過去一年間の離職者はいない。職員が代わる場合は、入居者が、自然に慣れるような配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を希望により受けることができるように、職員へ周知したり、月1回の会議で報告会を行っている。日常のケアの中で理念の実践ができるよう指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の行事に参加し、研修をさせてもらうなど、活動を通じて、サービスの質の向上に役立っている。グループホーム協議会での、研修や交流会へも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
kouzilyou					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される以前に職員が自宅を訪問し、職員と馴染みの関係をつくれるよう支援している。また、他の入居者とも徐々に慣れていただくよう、体験入居してもらうなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃の会話のなかで入居者の得意なことや、やりたいことを聞き、生活に取り入れている。漬物のつけ方、餅つき等、昔から馴染んだ季節毎の行事は入居者から指導を受ける事も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は、日常のケアを行いながら、また本人の言葉からアセスメントとして記録し全職員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がどんな暮らしをしたいのかを大切に考えており、介護計画のための検討会には、本人や家族の希望を取り入れ、気持ちに添った計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行うとともに、状況の変化に応じて、随時変更もしている。家族が参加できないときには、事前に話を聞くなど、本人や家族の意向にも配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診、自宅他への外出支援、趣味(手芸材料など)の為の買い物など、要望に合わせて職員が付き添うなど柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望により決めている。受診時は日々のバイタルなどの記録を参考にして頂くなど、医師との連携に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、入居時に意向を聞き取り、チームで話し合いながら、希望に添いたいと考えて同意書も作成している。協力病院との連携もとれ、本人や家族の気持ちの変化を受け入れながら対応していく考えを家族にも伝えている。		
ni					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉掛けや尊厳のあるケアに努めている。記録類も個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の趣味や得意なことを情報として職員で共有し、希望に添って支援している。手芸が好きな入居者と、新聞広告を見て買い物に行くなど個別の楽しみが持てるような配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者からのリクエストメニューを取り入れ、買い物から料理、片付けまで職員と入居者が共に行っている。食事と同じものを、一緒に楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのテレビ視聴、趣味、昼寝等の時間に合わせ、入居者の希望を最優先に考えている。夜間の希望も受け入れるなど、入浴を楽しんでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や、特技を把握し、張り合いのある毎日を過ごせるように、漬物つけ、手芸、絵画、料理など気晴らしのある生活になるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園は、毎日の散歩コースになっている。毎月ドライブなどの外出を計画したり、食材や個人ごとの買い物は日常的になっており、戸外へ出る機会は多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけておらず、自由に出入りできる。外出される際には、職員が付き添っている。毎日散歩するようになって、入居者が個人で出られることが少なくなった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対するマニュアルを作成し、昼・夜共に入居者や職員で避難訓練を実施している。近隣とも馴染みの関係ができており、協力を呼びかけている。警察や消防署の指導を受けるなど積極的な働きかけが窺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月3回、栄養士の指導のもとに献立を作成し、栄養のバランスに気をつけている。入居者の状況で刻み食にするなどの、工夫もしている。水分に関しては個人毎にペットボトルを準備して飲みたいときに飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは静かでゆっくりした時間が流れ、テレビの音にも配慮されている。職員の声も静かで落ち着いている。家具は家庭的なものが配置され、季節の花をあしらうなど居心地が良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスや椅子等の家具が持ち込まれ、家族の写真を飾ったり、仏壇の水替えをされており、個性が感じられ安心できる雰囲気がある。		